

令和 2 年 度

(応募総数 653 件)



チーム名

仲良しぞうさん

最優秀賞

参加者：お母さん・子（小学4年生）

〈読んだ本〉

〈本を書いた人〉

100ばんめのぞうがくる

さとう さとる

〈感想〉

- ・主人公のたつおは、小さいころからぞうが好きでいっぱいぞうのグッズがおい
てあって、びっくりしました。またたんじょう日プレゼントで買ってもらうの
ですが、なんと次で100?!そんなにぞうが好きなのが分かりました。99
頭のぞうが、たつおがねむっているときに話していて、おもしろいなと思
いました。(麻美)
- ・この本は小さい頃に読んだことがあるけど、大人になってまた読んでも楽しい
気持ちになりました。絵もなつかしく思い出しました。お母さんは小さい頃、
スヌーピーのものが好きで集めていたことがあります。麻美ちゃんは何が好き
だったか覚えているかな?(母)
- ・答えは「うさぎの人形」です。ピアノの発表会のじゃんけん大会で勝ってもら
った人形です。名前は「うさちゃん」です。目がねむそうでかわいいからです。
(麻美)

〈「うちどく」をやってみた感想〉

- うちどくをやってみて、「読書ってこんなに楽しかったっけ」と思いました。
『100ばんめのぞうがくる』は、とても読みやすいのでぜひ読んでほしいです。
(麻美)
- 親子で同じ本を読んで感想を伝え合うのは、お互いの思っていることもよく分
かって、いいなと思いました。(母)

チーム名

チームにしやん

中央図書館長賞

参加者：お父さん・お母さん・子（小学3年生・妹・弟）

〈読んだ本〉

〈本を書いた人〉

くれよんがおれたとき

かさい まり

〈感想〉

- ・少しケンカをしてしまって、心がモヤモヤしてしまっても、あやまりあって、またなかよくなれたのは大切だなと思いました。（さな）
- ・勇気を出してモヤモヤした気持ちをすぐに言うことが大切なことかもしれないね。（母）
- ・子どもの心の揺れや変化が上手く表現されていると思った。小さな子どもでもよく分かるシチュエーションだったので、本を読んだ後に「〇〇だったらどうする？」というような話をしやすかった。（父）
- ・わたしだったらすぐにあやまるとおもうのになー（なお）

〈「うちどく」をやってみた感想〉

本を読んでから、自分だったらどうすると考えてみました。すぐに分からなかったけど、みんなで言い合いながら考えると、分かりました。もっと家読をやってみたいです。

チーム名

チームまつもと

優秀賞

参加者：お父さん・お母さん・子（小学1年生）

<読んだ本>

<本を書いた人>

さむがりやのサンタ

レイモンド・フリッグス

<感想>

- ・サンタさんが「さむい、さむい」と言いながらいつも出かける姿は、自分と重なりとても共感できました。（父）
- ・サンタさんの口ぐせの「やっかいなボタンだよ」と「いいこだ」は、家族で一時期はやり、日常生活でよく使いました。（母）
- ・サンタさんのトイレが家の外にある所と、プレゼントを持ってえんとつからおりておうちに入る所がおもしろくて、好きです。（悠花）
- ・サンタさんの料理上手な所がおもしろくもあり、絵も温かみがありおいしそうでした。（家族一同）
- ・ママが子供の頃から大好きで、大事に取っていたこの絵本を、娘に読み聞かせをした時は、感動しました。（母）

<「うちどく」をやってみた感想>

一冊の本をとおして、それぞれの感想に共感できたり、新しい発見もあり、自分たちの子供の頃を思い出したりして、たのしかったです。

チーム名

たびにでたいな！チーム

優秀賞

参加者：お母さん・子（小学4年生・1年生・年中）

<読んだ本>

<本を書いた人>

そらとぶじゅうたんでせかいいしゅう

ステラ・フラックストーン

<感想>

- ・そらとぶじゅうたんがあったら、おとうさんがうまれたメキシコにいて
タコスを食べたいです。（せいじ）
- ・おかしのあるところなら、どこでもいいからいってみたいです。（あんじ）
- ・そらとぶじゅうたんがあったらハワイにいて、海でたくさんあそびたいで
す。（まや）
- ・新型コロナが世界中で流行して、旅行に出るのも難しい時に「ここに行きたい」
「あそこも行ってみたい」と、夢の広がるお話しでした。おばあちゃんの
飛んだルートを地図で確認しながらよみ進めました。おばあちゃんは、行く
先々で服装も変わっていて、小さな発見がいくつもありません。（母）

<「うちどく」をやってみた感想>

カラフルなさし絵の本で、それぞれの国の景色や民芸品が描かれている本で
した。外国に行ってみたい！気持ちがもりあがり、家族みんなで楽しめました。

チーム名

チームH☆K

優秀賞

参加者：お母さん・子（小学6年生）

〈読んだ本〉

〈本を書いた人〉

となりの火星人

工藤 純子

〈感想〉

・ぼくは、クラスの友達と比べて、何をするのもゆっくりな方です。他の子みたいにゲームもしないし、昼休みも図書室で一人で過ごしています。この本を読むまでは、みんなと違うことがいけないことのような気がしていたんだけど、「となりの火星人」を読んでからは、ぼくはぼくでいいんだと思えるようになりました。その気持ちをお母さんに話すと、にっこりうなずいてくれました。（晴）

・私もこの本を読んで、本当に良かったと思いました。これまでは、晴の成長を他の子と比べてしまい、悩むことが多かったのですが、本を読み終えてから晴のことを沢山ほめてあげられる様になりました。そして、そんな余裕のある自分も好きになれました。（母）

〈「うちどく」をやってみた感想〉

ぼくたち親子は、今までも「うちどく」をしていました。二人とも本が大好きだし、家の本棚には、多くの本が並んでいます。だから、本を読んだ後、「こうしたら良かったのにね。」などとお話の展開について話します。ぼくたちは、これからも「うちどく」を続けて、今よりもっと仲良し親子になろうと思います。

チーム名

バンブーファミリー

優秀賞

参加者：お父さん・お母さん・子（小学1年生・5歳・3歳）

<読んだ本>

<本を書いた人>

エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット

<感想>

- ・お父さんがこどもの時に国語の教科書にのっていた話なので、子供たちにも一度は読んでほしいと、ちょうど買っていた本をみんなで読みました。（父）
- ・ワニのきまぐれなせいかくが面白かった。（りく）
- ・どんなピンチの時もエルマーが冷静に知恵で回避していくのが面白かった。（母）
- ・ぴよんぴよこいわが気にいって、家でわたる練習を兄としたよ。（きら）
- ・読みかえすと昔のイメージとちがいました。りゅうを助ける所がヒーローのようでかっこう良かった。（父）
- ・エルマーがりゅうを助ける為にした冒険がかっこよかったので、自分もしてみたいと思いました。（かな）

<「うちどく」をやってみた感想>

我が家は、まだ字の読めない子もいるので、母と1年生の娘で交代しながらの読みきかせ会を何日かにわけながらしました。娘がどれだけ上手に読めるようになったのか成長を感じたり、下の子たちもお姉ちゃんが読んでくれるとゆう事にキラキラと目をかがやかせて聴いていた事が印象的でした。父の提案で、本を全部読んだ後に皆でエルマーの絵をイメージして描いてみよう時間を作れたのも良かったです。それぞれのエルマーのちがいを話したり、皆で楽しみました。